［３］　次の文を読んで，下の(1)～(7)の問いに答えなさい。

20世紀前半は，列強が世界の覇権をめぐって争う時代であった。第１次世界大戦勃発の背景には，世界政策をめぐるイギリスと①ドイツの対立がある。この大戦により，ヨーロッパが国際政治を主導する時代は終わりを告げ，②ヴェルサイユ条約締結後の国際社会では，アメリカや日本の発言力が増大した。1920年に国際連盟が発足し，1928年にアメリカの国務長官（ａ）とフランスの外相ブリアンが提唱して不戦条約が結ばれるなど，国際協調の動きも進展した。また，大戦中に起こったロシア革命は，③アジアの民族運動家に大きな影響を与え，各地で民族自決の動きが広がった。しかし，1929年に発生した世界恐慌は，資本主義諸国に大きな打撃を与え，ブロック経済化が進む一方，資源が乏しく経済力の弱いイタリアやドイツでは④ファシズムの台頭を招いた。こうして，国際的な対立が深刻化した結果，第２次世界大戦が引き起こされた。

第２次世界大戦後は，1947年にアメリカの国務長官（ｂ）が，ヨーロッパの共産化を阻止する目的で経済復興策を発表する一方，ソ連・東欧諸国はそれに対抗して1949年１月に（ｃ）を結成した。また同年，ソ連は原爆実験に成功し，米ソを中心とする核兵器開発競争が開始された。このような状況に対して，⑤平和を求める国際世論が高まりを見せた。各国の核軍縮に対する取組は，1960年代から本格的に行われ，1987年に米ソ両首脳は⑥ＩＮＦ全廃条約を締結した。

(1)　文中の（ａ）～（ｃ）に当てはまる語句を書け。
(2)　下線部分①について，19世紀末に「世界政策」を掲げ，強硬な帝国主義政策を進めた皇帝は誰か，その名前を書け。
(3)　下線部分②によって，ドイツの領土はどのように変化したか，簡潔に説明せよ。
(4)　下線部分③について，第１次世界大戦後の孫文の中国における活動内容について，簡潔に説明せよ。
(5)　下線部分④について，第１次世界大戦後にドイツでファシズムが台頭した背景について，説明せよ。
(6)　下線部分⑤について，1955年７月９日に著名な科学者らが核兵器の廃絶を目指す宣言を行った。その宣言の名称を書け。
(7)　下線部分⑥について，その意義を簡潔に説明せよ。

［４］　次の文を読んで，下の(1)～(5)の問いに答えなさい。

我が国と他地域との交流は，どの時代にも盛んに行われていた。縄文時代には，①外洋にまで及ぶ広範囲な交易を行っていた。弥生時代や古墳時代においては，②中国の文献などから，中国大陸や朝鮮半島との交流のあったことが知られている。

律令体制の中で，国内では中央と地方を結ぶ③駅制が整えられる一方，遣唐使の派遣により，大陸の先進的な制度や文化が我が国にもたらされた。遣唐使の廃止後も商人や僧の往来は盛んであり，平安末には瀬戸内海航路が平氏により整備されたため，宋との交易が活発化した。

鎌倉・室町時代においても大陸との交流は続き，特に④禅僧の往来が盛んであった。諸産業の発達や庶民層の成長に伴い，国内の商品流通も活発となった。その後，戦国大名の中には，自由な商取引を保障した者もいたため，商業や流通はいっそう発展した。

江戸時代になると，海外との交易は制限されたが，国内では，幕府が江戸・大坂・京都の三都を中心に各地の城下町をつなぐ全国的な街道網を完成させ，一里塚や⑤関所などの施設が整えられた。また，水上交通網の整備も進み，商業や流通は全国的にますます盛んになった。

(1)　下線部分①は，考古学上のどのような成果から知ることができるか，説明せよ。
(2)　下線部分②に関する次の史料を読み，下のア，イの問いに答えよ。

> …其の国，本亦男子を以て王と為す。住まること七，八十年。倭国乱れ，相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を卑弥呼と曰ふ。（ａ）を事とし，能く衆を惑わす。
> …景初二年六月，倭の女王，大夫難升米等を遣し郡に詣り，天子に詣りて朝献せんことを求む。その十二月，詔書して倭の女王に報じて曰く「…今汝を以て（ｂ）と為し，金印紫綬を仮し，装封して（ｃ）の太守に付し仮綬せしむ。」
> （『魏志』倭人伝）

ア　史料中の（ａ）～（ｃ）に当てはまる語句を書け。
イ　史料中の═線部分について，当時の国内情勢から考えられる理由を説明せよ。

(3)　下線部分③について，我が国の律令体制下における駅制について，簡潔に説明せよ。
(4)　下線部分④について，足利尊氏のあつい帰依をうけ，天竜寺を開山した臨済宗の僧は誰か，その名前を書け。
(5)　下線部分⑤について，江戸時代の関所は中世の関所とは性格を異にしている。その違いについて，説明せよ。